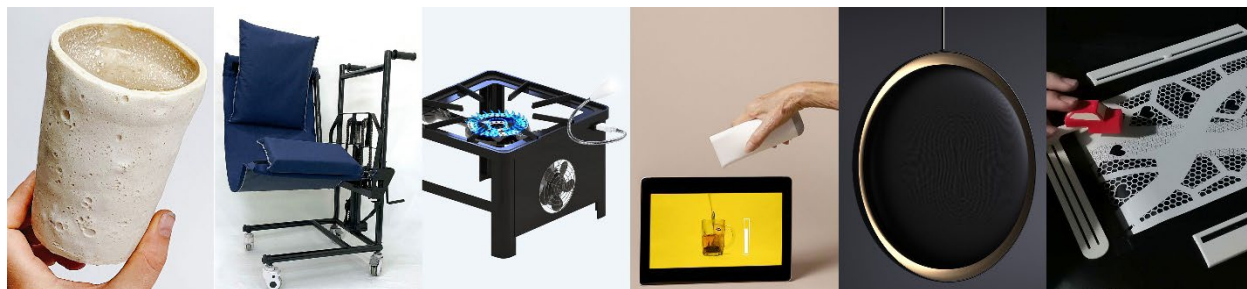


2022年1月27日

豊かな社会とより良い未来を創造する革新的なアイデアが集結 「LEXUS DESIGN AWARD 2022」入賞作品を発表



LEXUSは、次世代を担うクリエイターを育成・支援することを目的とした国際デザインコンペティション「LEXUS DESIGN AWARD 2022」の入賞作品を発表しました。

通算10回目を迎える本アワードに対し57の国と地域から1,726点の作品応募があり、豊かな社会とより良い未来を創造するためにLEXUSが掲げる3つの基本原則「Anticipate（予見する）」、「Innovate（革新をもたらす）」、「Captive（魅了する）」、そして、今回新しく審査項目として追加された「Enhance Happiness（そのアイデアがいかに人々に幸せをもたらすか）」を審査基準とし、6組のクリエイターが入賞しました。

入賞した6組は、世界の第一線で活躍するトップクリエイターから直接指導を受け、対話を重ねながら、約3ヶ月かけてアイデアをブラッシュアップする貴重なメンターシップの機会を得ます。本年のメンターを務める、サム・バロン氏、ジョー・ドーセット氏、サビーヌ・マルセリス氏、早野洋介氏の4名からの継続的な指導を受けながら、賞典の一部である制作支援金を活用して制作したプロトタイプは、最終作品として2022年春に公開します。

併せて、入賞者は最終作品を審査員であるパオラ・アントネッリ氏、アナパマ・クンドウ氏、ブルース・マウ氏、サイモン・ハンフリーズにプレゼンテーションし、6組の中から「LEXUS DESIGN AWARD 2022」のグランプリが決定します。入賞者には審査員と個別の交流機会も設けられており、自身のアイデアや将来のキャリアについてもアドバイスを受けることができます。

本アワードの審査員の一人であるアナパマ・クンドウ氏は、今回の入賞6組の選出について次のようにコメントしています。「障がいを持つ方々が直面する現実的な問題や、地球との共存をテーマとするなど、社会が抱える課題に対するクリエイターの感性に感銘を受けました。メンタリングプロセスを通じて、入賞者のアイデアの魅力が最大限引き出されることを楽しみにしています。今回、本アワードに初めて参加しましたが、多様な考えを持つ他の審査員の方々とアイデアについて議論し、考

えを共有できたことは私にとっても非常に有意義でした。異なる視点で互いに意見を出し合い、素晴らしい作品を選出することができました。」

入賞者たちは、今後3ヶ月におよぶメンターシップのキックオフとして1月中旬にワークショップに参加し、自身のアイデアのブラッシュアップに着手しました。今後メンタリングを経て各アイデアがどのように進化するのか、また「LEXUS DESIGN AWARD 2022」のグランプリに輝くのはどの作品となるのか、ぜひご期待ください。

LEXUS DESIGN AWARDの詳細に関しては、下記サイトを参照ください。

ホームページ：<https://lexus.jp/magazine/artdesign/lexus-design-award/>

公式ハッシュタグ：[#lexusdesignaward](https://twitter.com/lexusdesignaward)

◆LEXUS DESIGN AWARD について

2013年に創設されたLEXUS DESIGN AWARDは、世界中の新進気鋭のクリエイターに焦点を当てる国際デザインコンペティションです。より良い未来を形成する力を持った作品を制作するデザイナーやクリエイターを支援することによって、社会に貢献するアイデアを育むことを目的としています。同賞は、世界的に認知された一流のデザイナーをメンターとして、提案したデザイン案のプロトタイプ化に取り組む貴重な機会を6組の入賞者に提供します。

	作品名	Chitofoam
環境に悪影響を与える廃棄ポリスチレンを安全に消化できるミールワーム（餌用の虫）の抜け殻を使って、分解可能なプラスチックを生成、環境にやさしい発泡スチロールの代替素材を様々な用途で応用することを目指す。		
	入賞者	シャーロット・ボーニング & メアリー・レンプレス
シャーロット・ボーニングとメアリー・レンプレスはプラット・インスティテュートで工業デザインの修士号の取得を目指すクラスメート。開発、行動経済学、化学、ファインアートに通じている。素材起点のイノベーション、共感テクノロジー、人間中心とした要素に重点置いたデザインを実践。		
米国・ドイツ（シャーロット・ボーニング）、米国・ノルウェー（メアリー・レンプレス） 活動拠点：米国		
	作品名	Hammock Wheelchair
車いす、フォークリフト、ハンモックの3つの機能を持ちあわせた介護用の椅子で、介護者の身体的負担を軽減するために介護者の目線で開発された。筒状の穴付きの布がパレットの役割を、2本のつめが付いた車いすがフォークリフトの役割を果たす。		
	入賞者名	Wondaleaf （アレックス・ウォン、ルーベン・タン、ルイス・タン、ウォン・ピン・ミン、ジョン・タン、ラウ・イェン・イェン、シー・ハウ・シン）
マレーシア		
Wondaleaf は、医療機器イノベーション企業に勤め、デザインとエンジニアリングのそれぞれ異なる専門分野を持つメンバーで構成。老人ホームの運営経験から現場の課題に触れたメンバーの声がけにより、こうした施設の介護者や患者を支援するデザインを形にするためにチームを結成。		

	作品名	Ina Vibe
軽量で持ち運び可能なガス式クッキングバーナー。調理で発生した熱を利用して電力を生み出すことのできる発電機能も備えている。調理・充電・照明といった複数機能を同時に提供することで、電力供給が不安定な地域の生活を支えることを目指す。		
	入賞者名	Team Dunamis (オバソジ・オツパメ、オバソジ・オサスンウェン、アナスタシア・アマディ、ウワゲ・アイゼヨサボ、エマニュエル・オモレヒン)
出身国		ナイジェリア
Team Dunamis は、ナイジェリアのランドマーク大学とリバーズ州立大学で工学および経営学を学んだ 5 名で構成されるチーム。エネルギー問題をはじめとする社会課題に対し、人間中心の考え方で、社会をより良くしていくシステムを提案することに情熱を注いでいる。地域社会における希望の光となることを目指している。		
	作品名	Rewind
認知症の高齢者が慣れ親しんだ動作を再現し、記憶を呼び起こすためのリハビリテーション支援ツール。手に持ったデバイスによる動作が、ペアリングされたモニター上に視覚的・聴覚的なフィードバックとして反映され、記憶を呼び起こすきっかけとなる。		
	入賞者名	ポー・ユン・ルー
出身国		シンガポール
ポー・ユン・ルーは、人々の生活を向上させることでより良い社会を目指す、社会活動に積極的なプロダクト・デザイナー。文化的に豊かで多様な社会に生きる彼女は、デザインをあらゆる人々のために直感的で包括的なソリューションを開発するための方法として考えている。		

	作品名	Sound Eclipse
	<p>ノイズキャンセリング技術を活用し、屋外の騒音を打ち消すことで、窓を開けた状態でも静かな室内環境で楽しむことを目指す。窓に設置したデバイスの背面のマイクが騒音を検知し、スピーカーから騒音と同じ振幅で逆位相の音波を出すことで、音波と騒音が合成し、互いに打ち消しあって外からの騒音を軽減する。</p>	
	入賞者名	Kristil & Shamina (クリスティーナ・ロギーノワ、シャミール・サハビエフ)
	出身国	ロシア
	<p>シャミール・サハビエフは、工業デザイナー兼コンセプトアーティスト。VR ゲームを含む複数のビデオゲームタイトルにデザインを提供している。クリスティーナ・ロギーノワはプロダクトマネージャーとして、多くのクリエイティブなアイデアを収益性の高いビジネスに変えることに貢献。現在は共に、未来を見据え、社会に利益をもたらすものを作ることを目標に工業デザインに注力している。</p>	
	作品名	Tacomotive
	<p>盲ろう児教育における共創コミュニケーションに着想を得て開発されたアナログのドライビングゲーム。紙の手触り、特にざらつきや柔らかさの感じ方が異なる複数のパターンカットを利用し、手触りでの探索を楽しむことができる。</p>	
	入賞者名	三國 孝
	出身国	日本
	<p>三國孝は、東京大学統合自然科学科を卒業し、現在は同大学の大学院工学部（機械工学専攻）の博士課程に在籍し、デザインを研究している。感情と自然への好奇心を大切にしつつ、いつか世界の片隅を照らすデザインを世に送りたいと願っている。</p>	

■ LEXUS DESIGN AWARD 2022 審査員プロフィール

パオラ・アントネッリ (Paola Antonelli)

ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 建築・デザイン部門シニア・キュレーター



ニューヨーク近代美術館 (MoMA) 建築・デザイン部門のシニア・キュレーター兼研究開発部門責任者。デザインが世界に好影響を与えることが普遍的な理解として浸透することを目的に活動している。デザイン、建築、アート、科学、テクノロジーを融合し、見過ごされがちなモノや習慣を含む日々の生活におけるデザインの影響力を追求する。これまでに多数のイベントのキュレーション、本の執筆、世界各地での講演を行う。過去、ハーバード大学やカリフォルニア州立大学ロサンゼルス校などで教鞭を執った。直近では、人と自然・生態系のバランスの修復をテーマとし

た「Broken Nature」(第22回ミラノトリエンナーレで開催)や、建築家ネリ・オックスマンのMoMAでの画期的な作品展示会「Material Ecology」を手掛けた。

現在は、MoMA R&D サロンのいくつかの新セッション、インタラクティブデザインとビデオゲームに関する展覧会 Never Alone に従事するほか、デザイン評論家のアリス・ローソーンと一緒に Instagram アカウント@design.emergency を開設し、COVID-19 のパンデミックにおけるデザインの役割をテーマにした活動に取り組んでいる。アリスとの共著「Design Emergency」は2022年の5月に出版予定。

アナパマ・クンドウ (Anupama Kundoo)

建築家 / アナパマ・クンドウ・アーキテクト創設者



1989年にムンバイ大学卒業、2008年にベルリン工科大学にて博士号を取得。社会経済に有益でありながら、環境に配慮する空間と素材の研究成果に基づき、人間を中心とした様々な建築を生み出してきた。

2021年春、デンマークのルイジアナ近代美術館にて個展「Taking Time」を開催。

急速な都市化と気候変動に関連する開発問題の専門知識を生かし、世界中の大学で建築と都市マネジメントについて講義を行い、2020年春にはイエール大学でダavenport客員教授を務めた。現在はドイツのポツダム建築学校の教授。建築技術への貢献を評価され、2021年オーギュスト・ペレ賞を受賞。また、RIBA Charles Jencks Award 2021 の受賞者でもある。

ブルース・マウ (Bruce Mau)

MASSIVE CHANGE NETWORK 共同創設者・CEO



デザイナー、作家、教育者、アーティスト、起業家。共感と事実に基づく楽観主義に根差す、ホリスティックな生命中心のデザインアプローチにより、クライアントがそれぞれの目的や未来を明確に思い描く事が出来るようサポートしている。30年にわたるデザイン革新の活動で、世界的なブランドや企業、団体、国家元首、著名アーティスト、楽観主義者の仲間たちとコラボレーションを続けてきた。

レム・コールハース氏と共同でデザイン・出版した「S,M,L,XL」で世界的に注目を浴び、最新の著書「Mau: MC24 - Bruce Mau's 24 Principles for Designing Massive Change in Your Life and Work (人生と仕事に大規模な変化をもたらすためのブルース・マウの24の原則)」では、あらゆる規模のどのような課題に対しても、前向きな変革とインパクトを生み出すための思考と手法を提案している。

サイモン・ハンフリーズ (Simon Humphries)

Head of Toyota & Lexus Global Design



LEXUS のグローバルデザインを統括する立場にあり、日本の文化・伝統を取り入れながら人々を魅了するデザインの方向性を構築し、ブランド哲学という形でブランド独自の価値を策定している。

1988年に英国王立技芸協会の製品デザイン部門での受賞をきっかけにソニーに入社。在職中に日本でデザイナーとして働くこと・生活することに魅了される。

1994年にトヨタ自動車入社以来、デザイン領域でリーダーシップを取り、LEXUS ブランドのアイコンとなったスピンドルグリル構築の一翼も担う。

2016年にED2 (Toyota Europe Design Development) の社長に就任、「自動車会社」から「モビリティカンパニー」へと移行するなかで、トヨタ e-Palette コンセプトなど将来モビリティデザインに着手。

2018年に帰国後、デザインの領域長としてトヨタ・LEXUS 双方のデザインの指揮を執っている。プライベートでは日曜大工を楽しみ、100年前の日本農家の復元にも挑戦している。

LEXUS DESIGN AWARD 2022 メンタープロフィール

サム・バロン (SAM BARON)

デザイナー / SAM BARON & Co クリエイティブ・ディレクター



創造性と先見性あふれるクリエイティブ・リーダーであるサム・バロンは、ホスピタリティ、リテール、デザイン、ファッション、カルチャーの各分野において、革新的なアイデアをコンセプトから完成まで導き、アートとデザインが互いの領域を超えて融合した作品を生み出している。さらに、世界有数のブランドとのコラボレーションにより、洗練されたまったく新しい体験を提供してきた。

また、イタリアの国際的コミュニケーション研究センター **Fabrica** のデザインディレクターとして、10年間にわたりコンサルタントを務めている。

2009年には、デザイン部門で「Grand Prix de la Creation de la Ville de Paris」を受賞。2010年にはフィリップ・スタルクにより「今後10年で最も重要なデザイナー10名」のうちの一人に選出された。

世界中の報道機関から常に注目を集め、その作品は国際的な美術館のコレクションとしても収蔵されている。最近では、PAD パリフェアの特別賞を受賞。

現在は、ポルトガルとフランスを拠点に活動の場を広げている。

ジョー・ドーセット (JOE DOUCET)

デザインエンジニア / ジョー・ドーセット x パートナース代表



デザイナー、起業家、発明家、クリエイティブ・ディレクターとして、現在アメリカで最も人気のあるクリエイターの一人。ドーセット氏はイノベーションや社会課題の解決、美意識にはデザイン思考が有用であると考え、視覚的・技術的にクリエイティブでありながら、メッセージ性を含んだ作風を特長とする。また、作品に関する

デザインや技術で数多くの特許を保有している。ドーセット氏の作品は、世界中で展示されているほか、ワールドテクノロジーアワードの「デザインイノベーション賞」や複数の「グッドデザイン賞」などの国際的な賞も数多く受賞。2017年には米国スミソニアン協会のクーパーヒューイット国立デザイン博物館による「ナショナル・デザイン・アワード」を受賞。同賞はプロダクト・デザイナーにとって最も名誉のある賞と言われている。また、Dezeen の Designer of the Year 2019 のファイナリストに選出され、Fast Company の Most Important Design Companies of 2019 を受賞している。

早野 洋介 (YOSUKE HAYANO)

MAD アーキテクト共同主宰



早野洋介は日本出身の建築家で、中国・北京を拠点とする MAD アーキテクトを共同主宰する。MAD はマ・ヤンソン、ダン・チュン、早野洋介により主宰される建築事務所であり、東洋の思想を取り入れ建築の未来を模索し、人と自然、環境との情緒的関係を創造し、建築文化の在り方を探求している。

受賞歴として、ニューヨークアーキテクチュア・リーグよりヤング・アーキテクト賞（2006 年）、デザイン・フォー・アジア賞（2011 年）、くまもとアートポリス推進賞選奨（2011 年）など多数。2008 年から 2012 年まで、早稲田大学芸術学校にて非常勤講師、2010 年から 2012 年まで東京大学にて外部講師を務める。2015 年から 2019 年にはロンドン AA スクールにて外部有識者審査員を務めた。

サビーヌ・マルセリス (SABINE MARCELIS)

デザイナー / スタジオ・サビーヌ・マルセリス創業者



ロッテルダムを拠点に活動しているオランダ出身のデザイナー。2011 年にデザインアカデミーアイントホーフェンを卒業したマルセリス氏は、プロダクト、インスタレーション、空間デザインの分野で、素材性を重視したデザイナーとして活動を開始した。彼女の作品は、素材の特性を強調したシンプルなフォルムを特徴とする。

マルセリス氏は他者とコラボレーションする際には、自身の強い美的感覚を発揮し、素材の研究や実験を活かして製造工程にも関わることで、斬新な視覚効果を実現している。その取り組みは美術館での展示や、クライアントワーク、ファッションハウスとのプロジェクトなど多岐に渡る。権威ある「Wallpaper Design Award」の Designer of the Year 2020 賞、「Elle Deco International Design Awards 2019」の Young Designer of the Year 賞、「GQ Men of the Year 2019」の International Artist of the Year 賞を受賞している。